

日本法学 第八十卷 索引

論 説

キケロ『カエキーナ弁護論』における争点に関する一考察……………吉原達也…一(一)頁

金融機関の融資局面における情報提供義務に関する一考察……………鬼頭俊泰…一(三九)

朝鮮総督府の答刑について……………新井 勉…二(一)

——刑罰史的一幕——……………小林忠正…二(二三)

名の法をめぐる裁判権対立と参座による決着……………吉原達也…二(七七)

——明治六年小野組転籍事件をとおして——……………吉原達也…二(七七)

『学説彙纂』第五〇巻第一七章第一法文について……………吉原達也…二(七七)

——ポティエ『新編ユステイニアヌス学説彙纂』レグラエ論序章——……………伊藤 悟…二(一〇七)

フランスのグラランド・リヨンを範とする小規模自治体の行税財政改革……………伊藤 悟…二(一〇七)

高齢者による万引きの防止に向けた一考察……………尾田清貴…二(一三九)

宇宙エレベータ法	甲斐素直 ……二(一七九)
その海法、空法及び宇宙法との関係	
タクシー事業の規制構造と行政裁量	友岡史仁 ……二(二一七)
国家主権の行使としての「国籍付与」	百地章 ……二(二五五)
連邦軍の国内出動の憲法適合性	小林宏晨 ……二(二八一)
二〇一二年八月一七日付連邦憲法裁判所大法院判決を巡って	
日露戦争と人道主義	喜多義人 ……二(三三三)
——松山俘虜収容所におけるロシア傷病者救護の検討——	
受益権化された財産権の担保と受益権質権の効力	長谷川貞之 ……二(三七一)
英国スチュワードシップ・コードと Approved Persons 制度	
——域外適用と金融機関のリスクガバナンスならびに監査等委員会制度などの接点——	藤川信夫 ……二(四一五)
譲渡無能力者による弁済	北居功 ……三(三)
——譲渡無能力者への弁済も含んで——	
委任における任意解除権の規範的性質	長谷川貞之 ……三(三九)

明治二六年の敷金慣習調査について ——「土地建物貸借ノ敷金ニ関スル慣例取調書」の紹介をかねて——	岡 孝 ……三(一一七)
ファイナンス・リースと民法(債権関係)改正	高橋 めぐみ ……三(一三九)
産業廃棄物の不適正処理と行政代執行 ——環境法と民法の交錯を中心に	小賀野 晶 一 ……三(一六九)
医薬品副作用被害救済制度が医療事故補償制度の 構想に与える示唆について	山口 齊 昭 ……三(二〇三)
診療過誤と組織責任の法理 ——米国の法状況を参考にして	峯 川 浩 子 ……三(二四五)
担保化された金銭の担保法的考察 ——敷金関係を中心に	清 水 恵 介 ……三(三〇三)
中国における契約締結上の過失責任について	胡 光 輝 ……三(三二九)
原子力災害に関する法制についての一考察 ——「原子力災害」に関するハード・ロー、ソフト・ロー、ケース・ローの交錯を中心に——	松 嶋 隆 弘 ……三(三六一)
会社法下における株主総会等の決議の取消しの訴え	酒 卷 俊 之 ……三(四〇二)

忠実義務と非業務執行取締役の考察

——米国の忠実義務の規範化概念と英国会社法の一般的義務、英国スチュワード…… 藤川信夫 ……三(四三九)
——シップ・コードと Approved Persons 制度等の接点——

イギリス上場会社における非業務執行取締役の独立性と監督機能 …… 大久保拓也 ……三(四九三)

航空由来カーボンの排出削減と国際社会 …… 工藤聡一 ……三(五二五)

判例における「法意」の意義 …… 藤村和夫 ……三(五五九)

金銭債権の一部請求についての一考察 …… 松本幸一 ……三(五九二)

各種社会保障制度と損益相殺 …… 金光寛之 ……三(六四七)

行政警察活動と犯罪の事前捜査(上) …… 加藤康榮 ……四(一)

わが国における法益関係的錯誤説に対する疑問 …… 野村和彦 ……四(三五)

翻 訳

国際法のドイツ環境法への影響 …… フィリップ・クーニヒ ……一(六七)
甲斐素直 訳

英米法におけるダイシー理論とその周辺

——「英国法は大学で教えることが可能か？」——

A.V.ダイシー 著
加藤 紘捷 訳 ……一（八五）
菊池 肇哉 訳 ……一（八五）

『タナクイルの伝承』序説抄

J.J.バオレン 著
吉原 達也 訳 ……四（七三）

ドイツ私法・オーストリア私法及びヨーロッパ私法に
おいて予防目的が重要であることに對する例としての
消費者契約及び普通取引約款における濫用条項の無効

マルティン・ホイプライン
永田 誠 翻訳監修 ……四（二二九）
永田 洋平 翻訳

英米法におけるダイシー理論とその周辺

——「ハーヴァード大学におけるコモン・ロー教育に学ぶ」——

A.V.ダイシー 著
加藤 紘捷 訳 ……四（二五三）
菊池 肇哉 訳 ……四（二五三）

研究ノート

戦争と連邦最高裁判所

——ストーン第一二代長官及びヴィンソン第一三代長官の時代——

甲 斐 素 直 ……一（二四三）

訴因の特定と訴因変更の要否

——平成一三年決定と訴因の機能——

三 明 翔 ……一（二九七）

解釈か、改憲か？ドイツでは誰が基本法（憲法）を支配するか……………小林宏晨：四（一九九）

社会を変えた最高裁判所
——ウォーレン第一四代長官の時代——……………甲斐素直：四（二三七）

大韓民国国税基本法第七章の二納税者の権利の概要……………阿部徳幸：四（二九五）

インターネットの紛争に関するアメリカ合衆国の一国際私法理論……………中村進：四（三三五）

判例研究

民法九〇〇条四号但書前段と憲法一四条一項をめぐり

非嫡出子の法定相続分問題

——最大決平成二五年九月四日金融法務事情一九七八号三七頁（平成二四年（ウ）第九八四号）……………小関康平：一（二三三）

第九八五号遺産分割審判に対する抗告棄却決定に対する特別抗告事件）——

柔道指導における過失責任……………船山泰範：四（三七五）